

理系
講座

地球環境の今—陸、海、空から

presented by 北海道大学大学院環境科学院

気象学、分子系統学、古気候学、電気化学の分野から地球環境を考えます。

開講日／4月～7月の第2・第4木曜 午後6時半～8時 全8回

開講場所／北大大学院環境科学院 2階D201教室(札幌市北区北10条西5丁目)

定員／100名

佐藤 友徳 准教授 [気象学]	4月12日 気象と自然環境、社会	日々の天気を決定する様々な要因は何でしょう。自然環境や社会が気象によってどのような影響を受けているのかをお話します。
	4月26日 北海道の気候—現在・過去・未来	数値シミュレーションで北海道の未来の気候を予測することができます。開拓以降に観測された過去の気候と、現在、そして未来の気候はどう変化し、どんな影響が出るのでしょうか。気候からみた未来学です。
鈴木 仁 教授 [分子系統学]	5月10日 哺乳類から見える地史と人類史	小さくて可愛いニホンヤマネを分子系統学的解析で研究したら、日本列島の地史や人類の歴史まで見えてくることがわかりました。小さな哺乳類の最新研究が拓く大きな世界を紹介します。
	5月24日 テンの毛色がいろいろあるわけ	テンやネズミの毛色を遺伝子レベルで調べたところ、ある遺伝子の変異を発見。こうした研究の意義を考えます。
山本 正伸 准教授 [古気候学]	6月14日 変わりゆく気候—太陽と火山の役割	気候は長い期間の中で変動します。過去の気候変動を知る方法や、太陽と火山の影響をまとめます。
	6月28日 歴史と気候変動	文明の繁栄も衰退もそのかげに気候変動あり。気候変動の恩恵と脅威について、歴史をたどりながら学びます。
八木 一三 教授 [電気化学]	7月12日 水素エネルギー社会	水と水素で循環する水素エネルギーは、なぜ究極のクリーンエネルギーなのでしょう。その秘密を解明しましょう。
	7月26日 燃料電池のしくみ	私たち生物は呼吸によって活動するためのエネルギーを生み出しています。燃料電池のしくみも実はそれと同じなのです。

文系
講座

ワールド・カルチャー・マップ—アートで巡るヒト・モノ・コト

presented by 北海道大学大学院文学研究科 芸術学講座

芸術作品を通じて人の営みの記録や記憶を解きほぐし、そこに希望や期待、いやもしかしたら絶望を見い出します。芸術を語ることの喜びを共有しましょう。

開講日／4月～7月の土曜 午後1時半～3時 全8回

開講場所／北大道新アカデミー講義室(札幌市中央区大通西3丁目6 道新北1条館2階)

定員／50名

北村 清彦 教授 [美学・芸術解釈学]	4月14日 芸術の見方・考え方	絵画作品の何をどう見て考えればよいのでしょうか。フランス印象派の表現方法や歴史的意義づけについて概説。「プリヂストン美術館展」鑑賞の予習となる講義。
	4月28日 作品と対話する	「プリヂストン美術館展」を各自で鑑賞したうえで、作品と対話するために必要な「ことば」について考えます。
谷古宇 尚 教授 [イタリア美術史]	5月12日 イタリア美術の基本 キリスト教と美術の深い関係	宗教に関心がなくても、わずかなポイントを押さえるとキリスト教美術・聖堂巡りの楽しみが倍増します。中世～バロックのイタリア美術の隠れた名品を紹介。
	6月 2日 こんなところにイタリア美術！ 遠くて近いイタリアと日本	美術大国イタリアは美術の輸出大国。洋画の技法を日本で最初に教えたのはイタリア人宣教師です。近代イタリアの風景画や彫刻作品を観察します。
浅沼 敬子 准教授 [現代美術史]	6月16日 アートとまちのものがたり 1 カッセルのドクメンタ	世界的国際芸術祭「ドクメンタ」の開催地として知られるドイツ中部の都市、カッセル。同祭の開催経緯と美術史的意義を、まちの歴史とともに語ります。
	6月23日 アートとまちのものがたり 2 ベルリンの国会議事堂	ドイツ近現代史の証人であるベルリンの国会議事堂は、現代アートの宝庫でもあります。同建造物で生まれたアートに関するものがたりを解説します。
鈴木 幸人 准教授 [日本美術史]	7月 7日 絵馬めぐり 1 大絵馬と絵馬堂のアートストーリー	神話や物語が描かれ日本各地の社寺に奉納された「大絵馬(扁額)」と「絵馬堂」から、日本絵画史における大絵馬や絵馬堂の役割を考えます。
	7月14日 絵馬めぐり 2 船絵馬と北前船のネットワーク	「北前船」寄港地の社寺に奉納された航路安全祈願の「船絵馬」。その展開と広がりを解説。北海道の知られざる絵馬も紹介します。